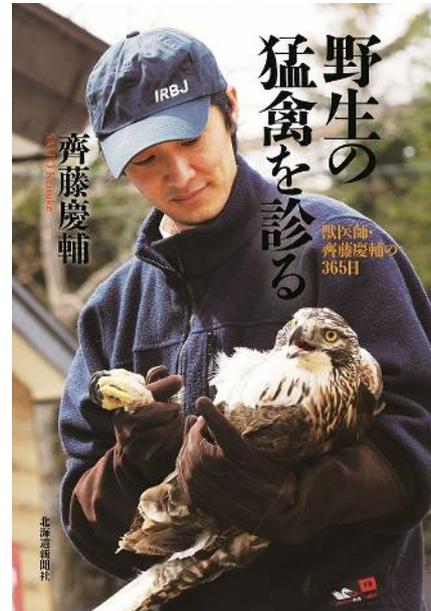


[新刊のご案内]

(書名) ^{もうきん} ^み **野生の猛禽を診る** 獣医師・齊藤慶輔の365日

著者 齊藤 慶輔 (さいとう・けいすけ)
仕様 四六判・並製本 256 ページ、オールカラー
定価 1800 円 (本体 1667 円+税)
ISBN978-4-89453-739-2 C0045 ¥1667E
発売日 2014 年 5 月 30 日
発行元 北海道新聞社



傷ついたシマフクロウ、オオワシ、オジロワシ……

信じたい、彼らの生きる力

人間の活動が野生希少種の存続を脅かしている!?
救護・治療を担い、北の大地を奔走する獣医師が訴える
「野の者は野へ返す」ため成すべきこととは——

北海道・釧路湿原内にある野生生物保護センターを拠点に、全国でも数少ない野生専門の獣医師として働く著者。特に傷ついたシマフクロウ、オオワシ、オジロワシといった希少猛禽類の救護と治療を担い、野生復帰という大目標に向け、日々心血を注ぐ。エゾシカ猟が原因の鉛中毒、鉄道・自動車や風力発電施設への衝突事故など、絶滅の危機に瀕する鳥たちを取り巻く人為的危機が増す中で、被害状況の把握とその予防に力を尽くす著者が訴える「環境治療」の考え方とは何か。

自身の約 20 年に及ぶ獣医師としての活動を振り返り、野生猛禽類の危機的状況を世に訴えるとともに、自分の足跡をたどろうとする後進の者へ「目標さえ見失わなければ道は必ず開ける」とエールを送る。鉛中毒や事故防止の話の主軸に、診療時の多様なエピソードも「治療室から」のタイトルで盛り込んだ、多彩な貴重な写真を添え獣医師・齊藤慶輔が自らのペンでつづる活動の記録。

《目次》

1 章 猛禽類を守る

なぜ猛禽類を守るのか*野生生物保護センターの役割*シマフクロウ保護の拠点*猛禽類医学研究所の仕事*自然界のルールに逆らわぬ救護*野生動物の心を読む*環境治療と救護の課題*諸外国との連携

2 章 鉛中毒

ワシが大量死*エゾシカ猟増加に連れて*防止のための市民活動*あるハンターとの出会い*行政の対応と続いた症例*海外からも注目が*他の猛禽類への影響

3 章 人間界との軋轢

事故予防と専門家との連携*具体的な予防策を提示*環境治療の具体的な取り組み*野生動物への餌付け

4章 大量死防止と「野へ返す」こと

サハリン資源開発の脅威*人獣共通感染症への対応*「野へ返す」ことを見据え*危険回避は本能頼り*
野生へ——復帰の判断と方法

5章 未来へ——

厳しい台所事情の中で*辛い経験が生んだ診療具*野生に返れぬ者たちの行方*自然界からの「親善大使」
終わりに——若者たちへ伝えたいこと

・著者紹介

齊藤 慶輔 (さいとう・けいすけ)

1965年、埼玉県生まれ。獣医師。

幼少時代をフランスで過ごし、野生動物と人間の共存を肌で感じた生活を送る。1994年より環境省釧路湿原野生生物保護センターで野生動物専門の獣医師として活動を開始。2005年に同センターを拠点とする猛禽類医学研究所を設立、その代表を務める。絶滅の危機に瀕した猛禽類の保護活動の一環として、傷病鳥の治療と野生復帰に努めるのに加え、保全医学の立場から調査研究を行う。近年、傷病・死亡原因を徹底的に究明し、その予防のための生息環境の改善を「環境治療」と命名し、活動の主軸としている。テレビ「プロフェッショナル仕事の流儀」「ソロモン流」「ニュースゼロ」などに出演、反響を集めたほか、2009年冬、映画「ウルルの森の物語」(配給：東宝)の主人公のモデルとなる。世界野生動物獣医師協会理事、日本野生動物医学会理事、環境省希少野生動植物種保存推進員。

[問い合わせ先]

北海道新聞社出版センター 編集担当:三浦

TEL 011-210-5742 FAX 011-210-5743

E-mail masa-m.m@hokkaido-np.co.jp